

環境活動レポート

《平成25年度》

対象活動期間 平成25年4月1日 ~ 平成26年3月31日



糸島市 荻浦ガーデンサバーフ



エコアクション21
認証・登録番号 002801



株式会社 大建

2014年6月2日作成

環境方針

(1) 経営理念

我々は
地域の人々が
ゆとりと安らぎのある
そして安心して暮らせる
そんな快適な生活環境づくりに
貢献することを使命とする

それによって
人々の満足を我々の喜びとして
一人ひとりが能力の向上と
人格の形成を行い
総合コンサルタント業を発展させる

豊かさを実現する
「まちづくり」



(2) 行動指針

当社は、九州一円で業務を進めていく中で、業務処理における過程で、環境への影響を理解し、自ら責任を持ち社員一丸となって、エコアクション 21 環境経営システムを構築・運用し、継続的な環境への負荷の削減に努めます。このため以下の環境への取組を積極的に推進します。

1. 環境関連法規制とその他要求事項を遵守します。
2. 環境目標を定め、定期的に見直し、継続的改善と汚染の予防に努めます。
3. 環境への負荷を軽減するため、次の活動を実施します。
 - (1) 地球温暖化防止のため、省エネルギーを推進し緑を増やします。
 - (2) 事業活動に伴う廃棄に関して、分別を積極的に実施することにより、リユース、リサイクルに努め廃棄物を削減します。
 - (3) 雨水を利用し、使用する水の削減に取り組めます。
 - (4) エコドライブを実行し、使用する化石燃料の削減に取り組めます。
 - (5) 土木設計に関して、環境に配慮する工事施工の提案を行います。
 - (6) グリーン商品の、購入品目を増やしていきます。
 - (7) 使用する化学物質は、適正な管理を行います。
4. この環境方針は、朝礼や各会議を通じて全社員に周知徹底するとともに、環境保全に関する意識を高め、社内における環境保全状況の知識・認識の向上を図ります。

平成 24 年 6 月 22 日改訂

福岡市早良区南庄 2 丁目 9 番 12 号

株式会社 大 建

代表取締役 松尾憲親

1. 組織の概要

(1) 会社概要

- ①会社名 株式会社 大 建
- ②代表者名 代表取締役 松尾 憲親
- ③所在地 〒814-0031 福岡市早良区南庄2丁目9番12号
T E L 092-851-3900 F A X 092-851-3947
E-mail : daiken@d-ken.jp (代表) http://www.d-ken.jp
- ④設 立 1974年3月20日
- ⑤資本金 1,000万円 社員数 36名
- ⑥登録業種 建設コンサルタント、補償コンサルタント、測量業、地質調査、
一級建築士事務所、宅建取引業、保険業、総合工事業
- ⑦事業種目 宅 地 開 発 部 門 : ディベロッパー、宅建取引、企画、管理、ビルダー
建設コンサルタント : 道路、河川・砂防、構造物、交差点、橋梁、上下水道、造成、農業土木、
公園、ビオトープ、開発行為、各種施工管理、環境アセスメント
補償コンサルタント : 土地調査、土地評価、物件、機械工作物、営業補償・特殊補償、事業損失、
工法検討、補償説明、事業認定、裁決申請図書等作成
測 量 部 門 : 確定、深淺、GPS、路線、基準点
地 質 調 査 部 門 : 機械ボーリング及び室内試験
建 築 部 門 : 設計・施工管理
企 画 部 門 : 市場調査、事業計画策定、各種コンサルティング
教 育 部 門 : 保険代理店、緊急人材育成校

⑧沿革

- 1974年 3月 20日 : 福岡市西区祖原12番30号において(有)大建測量設計として設立
- 1978年 8月 1日 : 福岡市西区高取2-4-10へ本社移転
- 1984年 6月 20日 : 株式会社へ組織変更 大建測量設計 株式会社
- 1988年 4月 1日 : 株式会社 大建に社名変更
- 1988年 8月 1日 : 佐賀支店開設
- 1990年 1月 27日 : 資本金1,000万円に増資
- 1990年 4月 8日 : 現住所(福岡市早良区南庄)に本社移転
- 1990年 6月 1日 : 熊本支店開設
- 1998年 5月 21日 : 松尾憲親 代表取締役に就任
- 2004年 10月 29日 : 中小企業経営革新支援法承認 (16経金第142号-8)
- 2005年 10月 1日 : 従業員持株会設立
- 2005年 12月 22日 : 福岡県「子育て応援宣言」登録 (福岡県第44号)
- 2006年 8月 1日 : 福岡県中小企業経営革新促進補助金交付
- 2007年 3月 7日 : 人材育成・成果品検証ツト「e-補償くん」販売開始
- 2007年 6月 26日 : 特許出願「e-補償くん」(教育支援装置及び電子教材) (特許2007-168044)
- 2008年 1月 25日 : 福岡銀行より銀行保証付無担保私募債の引受
- 2008年 8月 21日 : 環境省「エコアクション21」認証・登録 (0002801)
- 2009年 9月 8日 : 鹿児島営業所開設
- 2009年 11月 13日 : 厚生労働省「緊急人材育成支援事業訓練」認定 (認21-40-02-00-0103)
- 2010年 5月 17日 : 特許出願「建築物の改築方法およびその方法により改築された建築物」
(特許2010-113337)
- 2011年 10月 31日 : 中小企業経営革新支援法承認 (福岡県第3292号)
- 2012年 10月 1日 : 経済産業省より異分野連携新事業分野開拓計画に係る認定取得

⑨賞歴 国土交通行政功労者表彰（国土交通省）

1994年7月15日	熊本北バイパス（2工区）建物等調査（その1）業務	九州地方建設局長賞
1995年7月18日	一般国道201号穎田町（外1件）用地調査等業務	北九州国道工事事務所長賞
1996年7月11日	黒崎バイパス用地調査（206）業務	九州地方建設局長賞
1997年7月14日	一般国道57号島原深江道路補償説明等業務	雲仙復興工事事務所長賞
1998年7月23日	飯塚バイパス忠営・忠隈地区用地測量（その2）業務	北九州国道工事事務所長賞
1999年7月15日	唐津道路半田地区補償説明業務	佐賀国道工事事務所長賞
2000年7月14日	日奈久芦北道路（二見地区・田浦地区）補償説明業務	八代工事事務所長賞
2001年7月19日	森山拡幅（7工区）建物調査等（その3）業務	長崎工事事務所長賞
2002年7月18日	合志野地区補償説明外1件業務	八代工事事務所長賞
2002年7月19日	福岡外環（福岡大学）貯蔵タンク調査等業務	福岡国道工事事務所長賞
2003年7月22日	森山拡幅（7工区）営業調査等（その1）業務	長崎河川国道事務所長賞
2004年7月16日	北方延岡道路曾木西地区用地調査等業務	九州地方整備局長賞
2004年7月16日	巖木バイパス長部田地区用地調査等業務	九州地方整備局長賞
2006年7月28日	日奈久芦北道路（20工区）補償説明業務	八代工事事務所長賞
2007年7月20日	延岡道路1工区（北川地区外）用地調査等業務	延岡河川国道事務所長賞
2007年7月31日	赤木橋地区用地調査等業務	宮崎河川国道事務所長賞
2010年7月16日	平成21年度木塚地区補償説明業務	九州地方整備局長賞

(2) 対象範囲

①支店・営業所

佐賀支店：〒841-0051 鳥栖市元町1336-6
TEL：0942-50-8445 FAX：0942-50-8446

熊本支店：〒860-0833 熊本市中央区平成3丁目8番1号 TEL：096-334-5420

鹿児島営業所：〒890-0008 鹿児島市伊敷4丁目12番13号 TEL：099-218-3737

延岡営業所：〒882-0856 延岡市惣領町19-20 TEL：0982-26-5225

大分営業所：〒870-0327 大分市小佐井1丁目12-35 TEL：097-524-2316

武雄営業所：〒849-2204 武雄市北方町大字大崎663 TEL：0954-36-2501

長崎営業所：〒857-4401 南松浦郡新上五島町網ノ郷691番地 TEL：0959-52-4830

東京営業所：〒102-0072 東京都千代田区飯田橋1-13-3-2F TEL：03-5226-5228

釜石事務所：〒026-0054 岩手県釜石市野田町2丁目20番32号 TEL：0193-23-3355

(3) 環境活動レポート

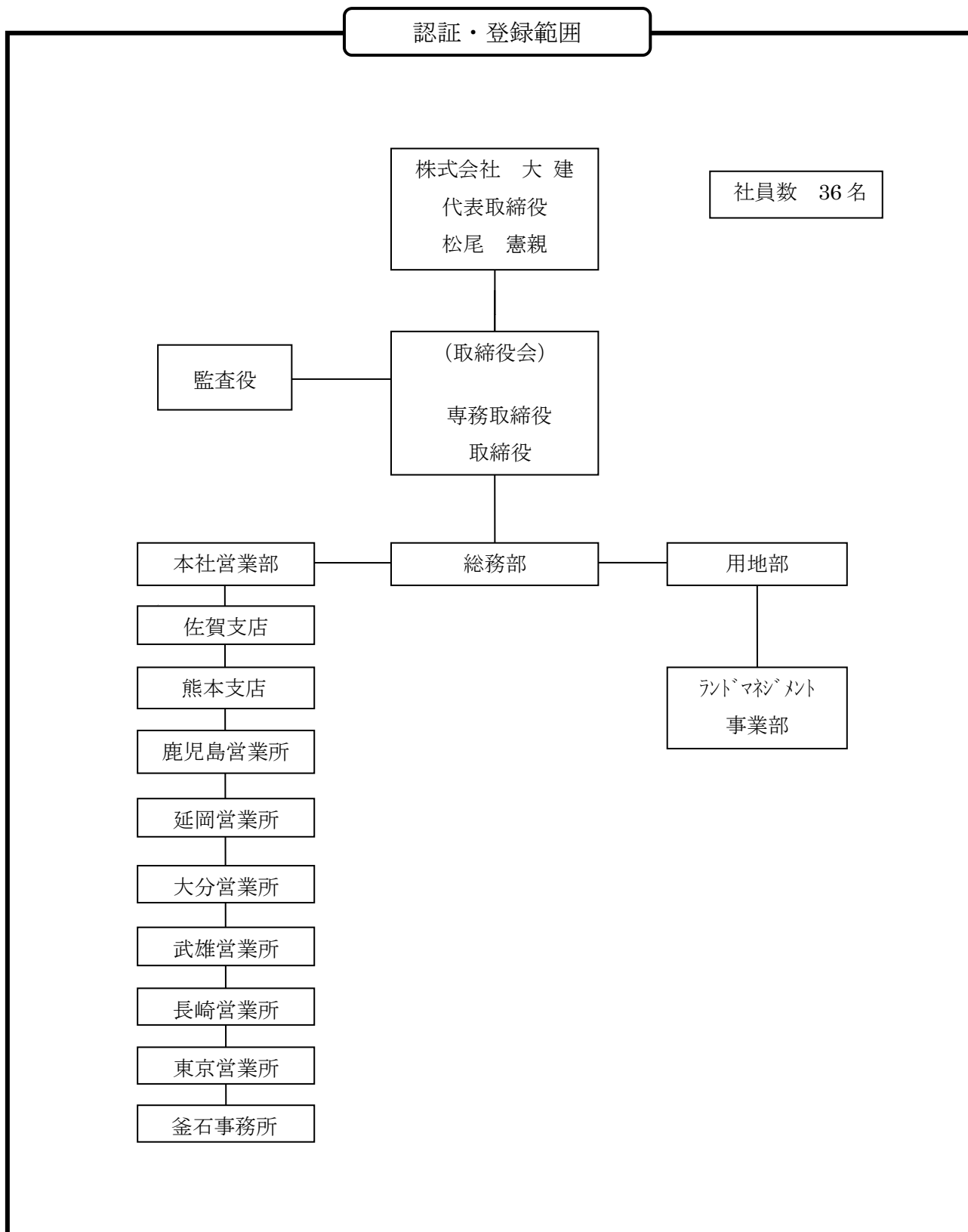
①対象期間：平成25年4月1日から平成26年3月31日
②発効日：平成26年6月2日

(4) 環境管理担当者

(株)大建 TEL：092-851-3900 E-mail：daiken@d-ken.jp
環境管理責任者 ライトマネジメント事業部 岡本 和寿
担当者 エコ担当 用地部 漁野、総務部 大神
車両担当 用地部 佐々井、江島、樋口

2. 組織図及び認証・登録範囲（認証・登録範囲は以下の通り）

対象範囲は、全事業所および全事業活動



3. 当年度及び中期環境目標

平成 26 年度から 28 年度までの目標は、以下の通りです。

実施項目	単位	平成 18 年度 (基準年)	26 年度目標 基準年×0.91	27 年度目標 基準年×0.905	28 年度目標 基準年×0.90
社員数	人	36	36	36	36
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂ /人	2,495	2,231	2,219	2,206
廃棄物排出量	kg/人	13.6	12.7	12.6	12.5
排出水量	t/人	6.3	5.7	5.7	5.5
化学物質使用量の削減	kg/人	—	0	0	0
グリーン商品の購入促進	種類	—	グリーン購入に努めます		
環境に配慮する工事施工 の提案	件	—	7	7	7

※1 二酸化炭素、排出水量は平成 18 年度の実績を基準とし、削減目標を設定しています。

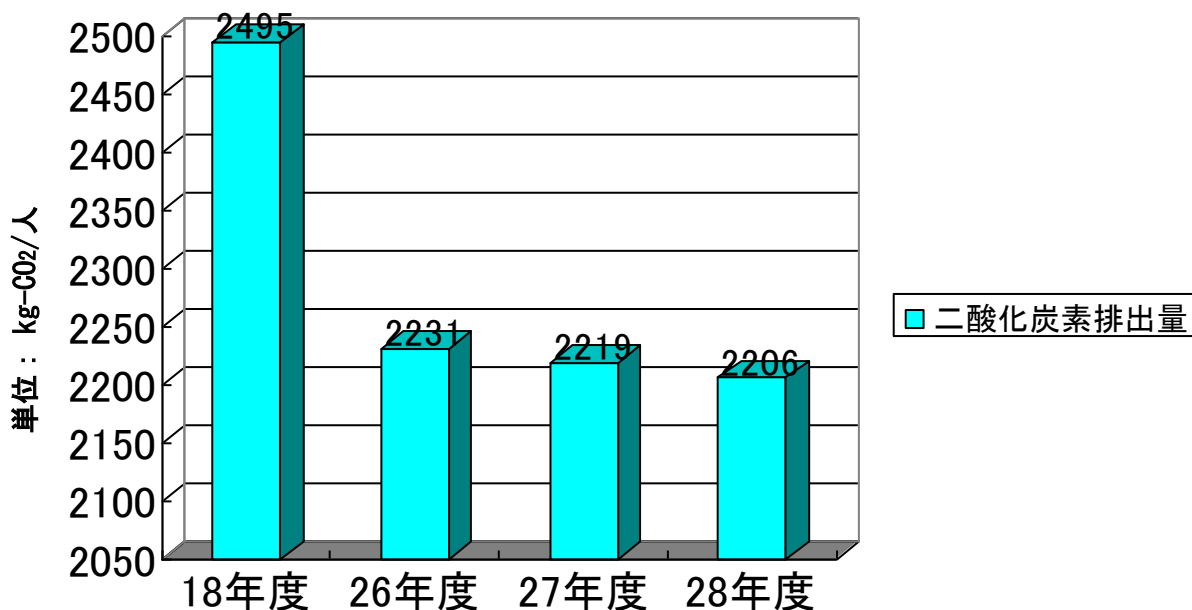
※2 廃棄物は平成 20 年度実績を基準とし、削減目標を設定しています。

(平成 26 年度目標は平成 20 年度実績×93%、以降毎年 0.5%ずつ削減する目標です。)

※3 電気の二酸化炭素排出係数は、九電の H24 年度 0.599kg-CO₂/kWh を用いた。

※4 化学物質使用量削減に関しては、現在社内では使用しておらず今後も使用する予定はありません。

社員一人あたりの CO₂ 削減目標



4. 当年度の環境活動計画

(1) 二酸化炭素排出量の削減

ガソリン・軽油使用量削減

- ①ハイブリット車や低燃費車への計画的な変更
- ②車両の急発進、急停車の禁止、通常走行時 2000 回転の保持
- ③タイヤ空気圧の定期点検・調整

電気・灯油使用量の削減

- ①空調の適温化の実行 夏（6月から9月）は25度から27度程度
冬（10月から3月）は21度から23度程度
- ②照明機器の省エネルギー化を進める
- ③不要電力節約（昼休み、帰宅時は消灯、PCの電源OFF）
- ④太陽光発電システムの継続運転

(2) 廃棄物排出量の削減

リサイクルの徹底

- ①ダンボール用紙等の委託業者へ再生依頼
- ②トナーカートリッジ回収・リサイクルの実行
- ③新聞紙は委託業者へ再生依頼

紙の使用量の削減

- ①白上質紙は裏面利用後、委託業者へ再生依頼
- ②包装紙、封筒は再利用後、委託業者へ再生依頼
- ③社内用の報告書、控えは裏面に複数画面印刷

(3) 排出水量の削減

- ①雨水の利用（5000タンク 2基）

(4) 化学物質使用量の削減

- ①現在まで当社では化学物質使用はありません。今後も使用することが無いように心がけます。

(5) グリーン商品の購入促進

- ①F S C 認証のコピー用紙等の購入検討

(6) 環境に配慮する工事施工の提案

- ①当社が請け負う土木設計業務委託で、CO₂削減出来る工事施工方法を提案します。
- ②当社が設計・施工する地下工作物（特許出願中）の販路拡大を目指します。
- ③当社が設計する雨水貯水タンクの普及を目指します。

5. 目標の実績

平成 25 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日までの目標における実績は以下の通りです。

実施項目	単位	平成 18 年度 (基準年)	25 年度目標 基準年×0.92	25 年度実績	目標の 達成率
社員数	人	36	36	36	-
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	89,828	81,384	68,644	-16%
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂ /人	2,495	2,261	1,907	-16%
電気の使用量	kWh/人	1,157	1,073	852	-21%
燃料の使用量	ℓ/人	734	675	614	-10%
廃棄物排出量	kg/人	13.6	12.8	24.7	+7%
排出水量	t/人	6.3	5.8	4.8	-18%
化学物質使用量削減	kg/人		0	0	-
グリーン商品購入促進	種類		1	0	0%
環境に配慮する工事施工 の提案	件		7	5	-29%

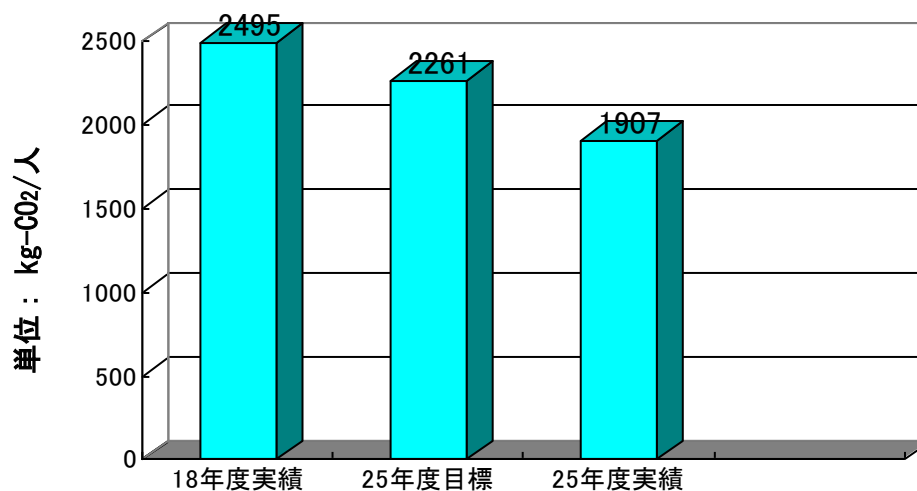
※1 二酸化炭素、排出水量は平成 18 年度の実績を基準とし、削減目標を設定しています。

※2 廃棄物は 20 年度実績を基準とし、削減目標を設定しています。

(25 年度目標は 20 年度実績×94%)

※3 電気の二酸化炭素排出係数は、九電の H24 年度 0.599kg-CO₂/kWh を用いた。

【平成 25 年度の CO₂ の目標と実績】



6. 環境活動計画の取組結果

(1) 二酸化炭素排出量の削減

ガソリン・軽油使用量削減

目標に対して実績は約 10%削減できている。

- ①遠方には極力ハイブリット車で行くように社員に周知し実行しました。
- ②遠方の事務所での打ち合わせ時は、途中の事務所に用件はないかを社内で確認し、同日に複数の作業が終了するように、社内で調整しました。

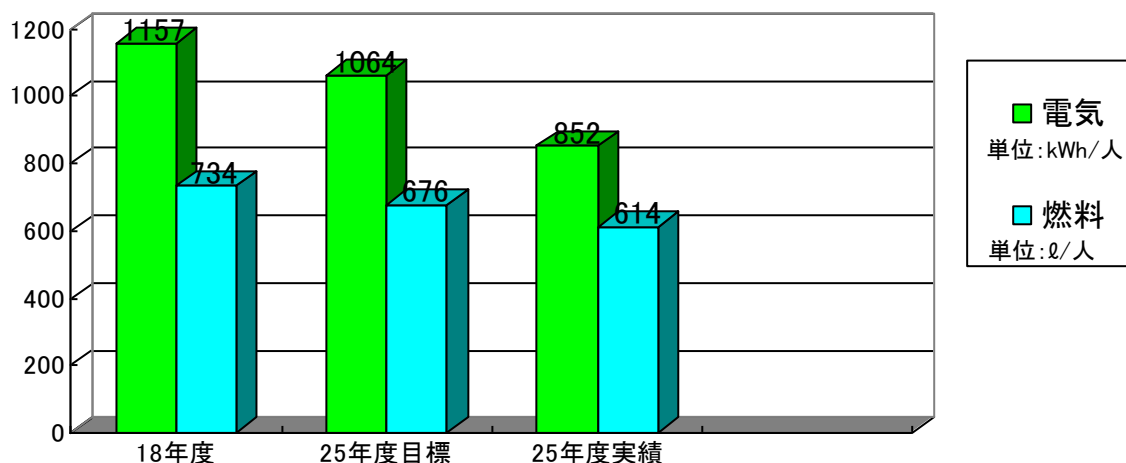
電気使用量の削減

(本社分)

目標に対して実績は約 21%削減できている。

- ①平成 22 年度に工事した本社ビル屋上に太陽光発電を約 4kw 増設、本社社屋内の 2 重サッシの追加、LED 照明への変更等が、本年度も継続して電気使用量の削減に貢献しています。

【平成 25 年度の電気と燃料の目標と実績】



電気使用量の削減

(荻浦住宅地分)

当社が、計画、施工、分譲、管理している住宅地（荻浦ガーデンサバーク）には、出力 19KWH の太陽光発電システムを設置し、25 年度実績で 19,347KWH の発電を行っている。この発電量は、二酸化炭素に換算すると、約 6,733 kg-CO₂ に相当する。この量は全社で排出する量の実に約 10% を削減していることに等しい。

(2) 廃棄物排出量の削減

目標に対して実績は約 7%増加している。

- ①6 月下旬に社内の組織編成を全面的に変更し、2 階・3 階とも配置替えをしたために、過去の成果物等を多く処分したことによります。
- ②住宅地建設工事が終了し、商品のカタログ等の処理も含めています。
- ③当社で設計施工した糸島市内の、住宅地の廃棄物を本社内で処理したためです。

(3) 排出水量の削減

(本社分)

目標に対して実績は18%削減できている。

- ①トイレの水タンク内のペットボトルや、水道の節水コマの設置は実行しています。
- ②雨水を洗車や散水に利用しています。

(荻浦住宅地分)

当社が、計画、施工、分譲、管理している住宅地（荻浦ガーデンサバーク）には、貯水量が約112トンの、雨水地下貯水タンクがある。この住宅地は総戸数18戸で、雨水の用途は庭の散水、ビオトープ、洗車用、トイレの洗浄用に利用できる。トイレに利用する雨水を見てみると、18戸で年間約1,814トンが節約でき、二酸化炭素に換算すると、約362kg-CO₂に相当する（換算式＝東京都水道局HP）。この量は全社で排出する量の0.4%であるが、二酸化炭素の排出削減に確実に貢献している。

(4) その他の取組

①防災士資格取得

平成25年6月22日～平成25年9月7日にかけて、福岡市が主催する『博多あん（安全）・あん（安心）塾』において、当社の社員3名で受講し、資格取得試験後3名とも無事資格を取得した。

今までは、社内だけの火災予防、交通事故予防を周知してきたが、消火器の操作も全社員が経験し、節電や節水の意識は十分満たされたと判断し、今後は社外にも着目し地域の防災や、災害時に貢献できるものと思われる。

7. 環境活動計画の次年度の取組内容

(1) 二酸化炭素排出量の削減

ガソリン・軽油使用量削減

- ①社用車の内、ディーゼル車を高燃費車両へ変更を検討する。
- ②遠方はハイブリット車の利用を継続。
- ③エコドライブの推奨。
- ④オイル・エレメントの定期的な交換。

電気使用量の削減

本社屋上の太陽光発電システムは、順調に稼働しており今後も継続する。

ただし、発電効率を最大限発揮するためには、昼間の使用量を下げなければならない、休日出勤を極力抑制し、太陽光発電による使用電力量削減を継続する。

(2) 廃棄物排出量の削減

- ①平成26年度までの目標と実績を比較し、達成できない状況であれば目標数値の変更を検討。
- ②紙資源再利用は100%実行出来ている。個人情報に関する紙類は市営焼却場へ持ち込み処分し他の紙類はリサイクル業者に回収を継続する。

③社内の個人資料等は、50%～25%に縮小し、両面印刷することを継続する。同時に、裏面印刷も活用し紙の排出量削減を継続する。

(3) 排出水量の削減

社内で使用する水量の削減は限度がある。当社で設計・施工した住宅地内の雨水貯水地下タンクを、他県の住宅地開発や地域の避難場所に利用してもらうように提案していきます。

(4) その他の取組

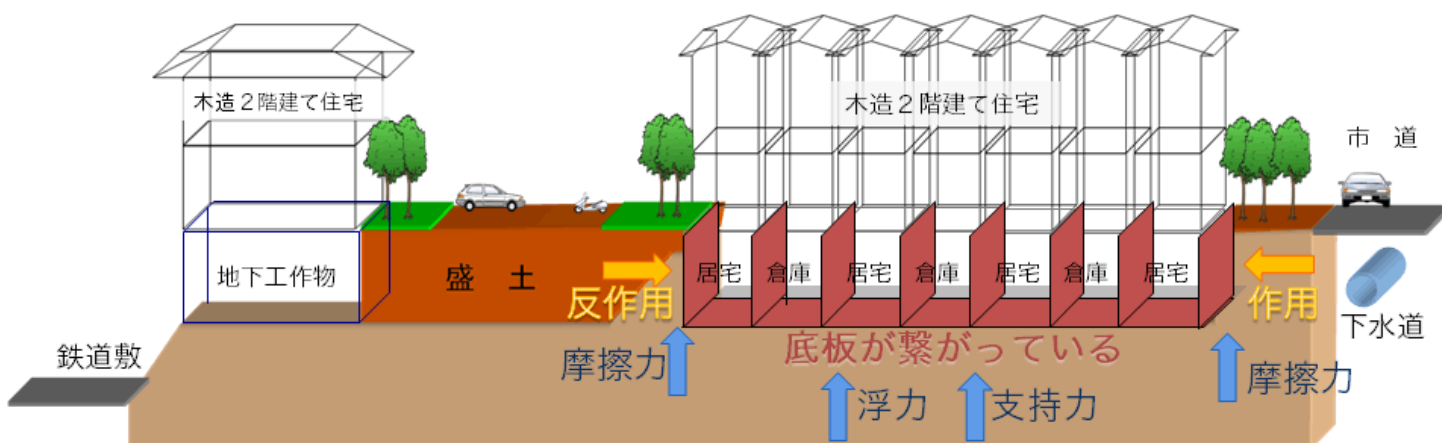
福岡県糸島市内で企画・設計・造成・建築を行った住宅地『荻浦ガーデンサバープ』は、通常の造成工事より土砂の搬入搬出を無くし、重機や重車両の使用を削減することで、CO₂の発生や、工事コストを削減した工法で施工しています。この工法を『NCZ工法（特許出願中）』という。

※NCZ工法：当社HP参照 <http://oginoura.com/>

強度な人工地盤と各戸4.6㎡の地下空間をつくる

「NCZ工法」

N = (強固な) 法面をつくる
C = 地下空間をつくる
Z = 日本を代表する戦艦「三笠」のZ旗にちなんで、災害にも強い不沈空間



この住宅地では、さらに以下の事も取り組み CO₂削減等に貢献しています。

- ① 延長約 45m（出力約 19kWh）の太陽光発電システムの設置で、余剰電力は売電を行い、収益は住民のための共益費の一部として使用。 約 6,733 kg-CO₂/年 削減
- ② 地下に約 112 t の雨水を貯水し（雨水貯水タンク『ためとっと』を設置）、住宅地内のトイレ洗浄用や樹木の散水に使用し、住民の水使用料金のコスト削減。 約 362 kg-CO₂/年 削減
- ③ 道路は透水性舗装で雨水を地下に戻し、ヒートアイランド現象や地下水不足の解消、さらに、ゲリラ豪雨時は一時貯水効果で洪水の抑制に貢献。
- ④ 住宅地の中心部に水と緑の庭を設置し、炭酸同化作用による微小地形の安定および住民の憩いの場としてコミュニティの活性化。
- ⑤ 車歩道分離により安全性の向上。
- ⑥ 全棟地下室付きで土地の有効利用が実現。

ウッドデッキ下部に

② 雨水貯水地下タンク

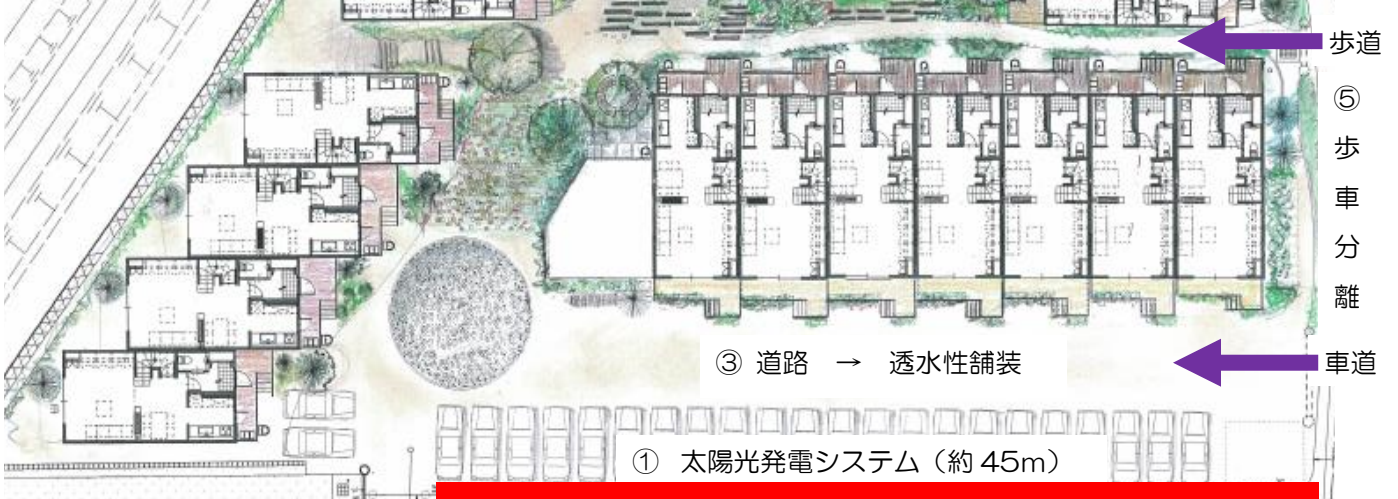
「ためとつと」を設置。



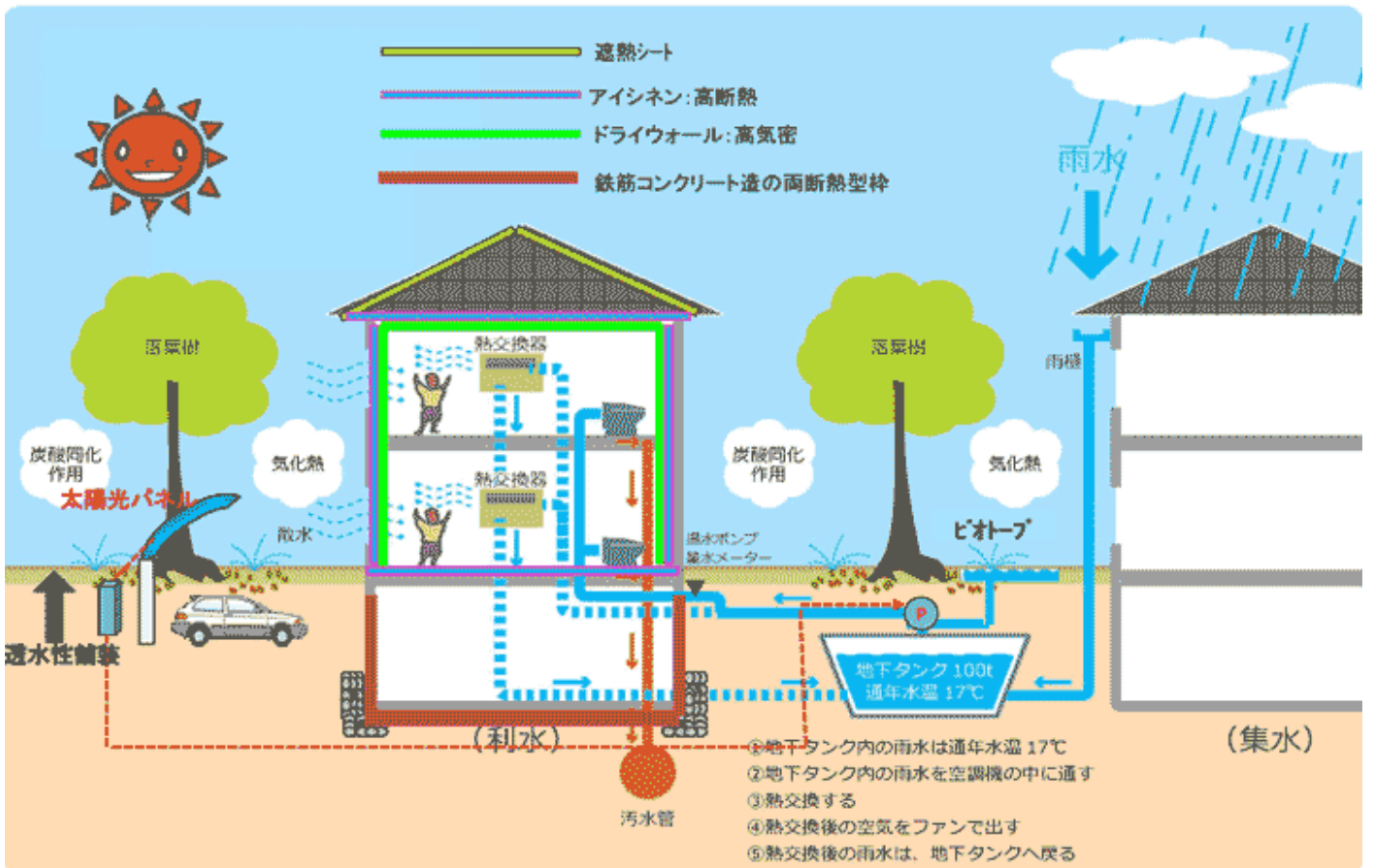
貯水された雨水を汲み上げるポンプもあり、樹木の散水等に利用することが出来る。



④水と緑の庭



「ためとつと」で雨水有効利用



微小地形気候の安定化実現概念図

8. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

(1) 当社に適用する主な関連法規

自己点検した結果、環境関連法規への違反はありません。なお、関係当局よりの違反等の指摘、及び訴訟等もありませんでした。

9. 代表者による全体評価と見直しの結果

E A21 も取組開始から7年目を迎えることができました。開始から現在に至るまで、当初は節水コマの取付から、太陽光発電の増設、照明設備の交換、省エネ電力のエアコン、2重サッシ、ガラス窓のフィルム、省エネガソリン車への変更など、様々な取り組みをしてきました。

ハード面の改善と同時に、社内でも『エコ担当者』『車両担当者』を任命し、具体的なエコ活動を推進してきました。平成24年からは省エネタイプのエコ住宅地【荻浦ガーデンサバーク】を計画し、施工、販売後、現在管理に至っています。

このエコ住宅地に関して平成25年度の大きな成果は、居住者が増え、当初計画通りに雨水の利用や、太陽光発電が順調に機能している事です。雨水の利用については、地下に埋設した雨水貯水タンクの残量を、福岡工業大学の森山先生と学生さんたちの協力により『見える化』が実現できました。自宅のパソコン等から以下のアドレスを入力すると残量が確認できます。

<http://srtmonitor-env.elasticbeanstalk.com/monitor?token=531c5aabe85c6>

また、今までの活動が社内だけでのエコ活動であったことを反省し、社外への活動に向けて少しでも対応できるように、社員3名が『防災士』の資格を取得しました。このことにより万が一の災害時には、避難者たちのリーダーとしての活動が見込まれ、早い救助活動や、避難場所の確保等に協力が出来ることと思われます。

今後も、社内に限らず社外にも目を向け、社会に貢献できるよう行動し、改善し続ける予定です。